

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873900769
法人名	有限会社 ケアサポートいずみ
事業所名	グループホームいずみ
所在地	愛媛県北宇和郡鬼北町大字永野市98番地1
自己評価作成日	平成23年10月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年11月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の暮らしや心身の状況を1ヶ月毎にご家族様に便りにて提供している。 ・行事及びレクリエーションを充実させ利用者様が楽しむ場を増やし、地域交流を推進している。 ・季節の野菜を植え、利用者と共に収穫を行い食材としている。 ・希望に沿った買い物や散歩等の外出ができるように対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>地域の高等学校の食品科の生徒と先生が、ロールケーキ作りに来てくださり、利用者と一緒に飾り付けをされたり、一緒にお茶の時間を楽しまれた。又、農業科の生徒が育てた花の苗を買って、事業所で育てておられる。読み聞かせボランティアの方は高齢の方で、昔話の紙芝居や絵本を持参して読んでくださり、利用者も楽しみにされている。時には、歌を一緒に歌ったりして過ごすこともある。</p> <p>6月からは、同地区内の法人小規模多機能「ほのぼの」と合同で会議を開催されている。前回の外部評価結果を受けて、会議参加者を増やせるよう取り組んでおられ、会議出席者から「警察署、消防署、区長、スーパーの店長、老人会長等へ会議の案内を出してはどうか」と提案いただき、声をかけられて出席いただけるようになった。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームいずみ

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

青木 瞳

評価完了日

平成23年10月24日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念である『安心』を基軸とし、『信頼』『笑顔』『自由』が暮らしの中にあるように、日々職員間にて共有し実践に努めている。	
			(外部評価) 理念に沿って、利用者のご自分の思いで行動できるような環境作りに努めておられる。職員は、『利用者のできることを増やして、笑顔が多く見られるよう支援したい』と考えておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 季節毎にホーム行事の企画及び地域の行事を計画し、高等学校・保育園・地域の方々との体験的な交流を深めている。また月に1回 元教師を招き『読み聞かせ』の時間を設けている。そして、日常的な買い物・散歩及び通院等にて、知人との出逢いができるように配慮している。	
			(外部評価) 地域の高等学校の食品科の生徒と先生が、ロールケーキ作りに来てくださり、利用者と一緒に飾り付けをされたり、一緒にお茶の時間を楽しまれた。又、農業科の生徒が育てた花の苗を買って、事業所で育てておられる。読み聞かせボランティアの方は高齢の方で、昔話の紙芝居や絵本を持参して読んでくださり、利用者も楽しみにされている。時には、歌と一緒に歌ったりして過ごすこともある。管理者は、地域の方達に認知症のことをさらに理解していただければ『認知症サポーター講座』を開きたいと考えておられた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 利用者の家族及びホーム周辺地域の人達に対して、認知症状及び認知症状の対応について機会をあるごとに伝えている。特に施設前のガソリンスタンドの方々においては、心に掛けて頂き協力をして頂いている。またホーム敷地内の草刈りや畑作りを依頼している作業員に対しても、声かけ等をお願いしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 二か月に1回定期的に開催している。ご家族・行政・医療・保健・福祉・永野市の地域住民を交えて会議を行っている。時々の利用者様状況・課題及び解決法・季節毎のホームの取り組みの報告を行っている。また地域における活動等において、推進委員の方々より情報提供及び情報交換・情報共有を行う事ができている。</p> <p>(外部評価) 6月からは、同地区内の法人小規模多機能「ほのぼの」と合同で会議を開催されている。前回の外部評価結果を受けて、会議参加者を増やせるよう取り組んでおられ、会議出席者から「警察署、消防署、区長、スーパーの店長、老人会長等へ会議の案内を出してはどうか」と提案いただき、声をかけられて出席いただけるようになった。</p>	<p>読み聞かせのボランティアに来てくださっている方にも会議に参加していただき、「ご自分の介護経験を話していただきたい」と考えておられる。いろいろな方が参加しやすいような会議を工夫して、今後さらにネットワークを拡げていけるよう取り組まれてほしい。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 鬼北町役場 介護保険課及び地域包括支援センター職員間にあつては、必要時情報提供及び情報交換を行い、サービス提供の向上に努めている。また鬼北町地域ケア会議への参加を9月より行っており、市町村情報及び他医療保険福祉分野の情報提供・情報共有が可能となっている。</p> <p>(外部評価) 鬼北町の地域ケア会議では、地域の介護保険事業所の情報交換ができる場となっている。運営者と管理者は「認知症キャラバンメイト養成講座」を受講された。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 施設研修及び日々のカンファレンスにおいて、具体的な拘束禁止行為を理解し拘束しないケアに取り組んでいる。施錠は夜間防犯及び帰宅願望の増強によって事故の危険性が強い場合のみ、ご家族の同意を得て表玄関の施錠を行っている。8月リビングドアに2つの防犯ブザーを設置し、予測不可能な単独外出に対応している。前徴候の確認できる単独外出においては、共に本人の気持ちに沿いスタッフが共に外出している。また気分の変容となる原因を究明し、その状況を作らない対策を行っている。</p> <p>(外部評価) 以前は、「帰りたい」と出ていかれる方もあり、玄関に施錠されたこともあったが、現在は見守りや声かけで対応されている。職員が居間から離れる際には、必ず他の職員に声をかけるようにされている。利用者が「家に帰りたい」と言われるような時には、職員と外に出て散歩されたり、折り紙やカラオケ等、好きなことに誘って気が紛れるように支援されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待の意味を研修及び日々のカンファレンスにおいて学習し、相互理解を深めている。また業務におけるストレスの蓄積が起これないように、心身の状況をスタッフ間で話し合える場を設けている。尚 利用者間による虐待が起これないように、利用者の性格・行動を把握し暴言・暴力行為に及ばないように対応している。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する研修等を学ぶ機会を設けているが、現在制度を必要とする利用者がいない。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所前に利用者及びご家族の面会を行い、状況確認を行っている。そして入所時、契約書・重要事項説明書の説明を行い了解を得るようにしている。また 契約書・重要事項説明書について改定が生じた場合は、家族に改定説明・了承・文書にて合意を得るようにしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 2ヶ月に1回の家族会の開催について、H23.1月に会を開き今後の方向性について話し合い、年1ないし2回の家族会にて合意を得る。毎月初めに、管理者が利用者の日々の健康状態及び生活状況について便りを送り知らせている。そして2ヶ月に1回新聞便りとして、日々の活動状況を報告している。家族が便りを見て頂くことによって、電話等にてその感想を寄せて頂くこともある。日々ご家族の面会回数多く、日常的にご家族及び親戚の方々話し合う機会を設けることが可能である。 (外部評価) ご家族の来訪時や毎月の書類とともに利用者の日々の暮らしや健康状態等を報告されている。又、2ヶ月毎の「いずみ便り」には写真を多く載せて、活動内容を報告されている。ご家族から「タンズに他の利用者の服が入っていた」との指摘があり、職員で話し合い、入浴の際に必ず職員がタンズの中を点検することに決められた。新人職員の紹介は、ご家族の来訪時に行うことにされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のミーティング及び日々の申し送り時必要時応じカンファレンスを行い、意見や提案を知る機会を設け、適宜具体策を充実させ、実施にまで到達できるように取り組んでいる。	
			(外部評価) 職員の得意なことを活かして取り組めるよう、管理者は、職員からの提案を「まずやってみる」ようにすすめておられる。居室入口のネームプレートは、職員が手作りされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 業務内容の修正及び業務時間の調整を行い、残業がない状況を確認できるように勤務体制を整えている。また職員一人一人が組織の一員としての自覚が持てモチベーションが向上できるように、役割を持ち自覚と責任・労働に対する喜びが継続できるように働きかけている。	
			(外部評価)	
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 常に職員の心身の状態・モチベーションの高低を確認し、指導・教育に努めている。また長年の介護経験者が初心者に対して、指導・助言を行い吸収できる場の提供を行っている。施設内研修は、月に1回実施している。また対外的な研修については、外部からの情報を都度伝達し自己研鑽できるように働きかけている。	
			(外部評価)	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) H23.9月より鬼北町における地域ケア会議に出席し情報交換を行っている。また同業者と交流する機会は、日々の関わりにおいて可能であり、互いの情報を共有しサービスの質向上が図れるようにしている。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に一度面会する機会を設け、入所前の不安や要望について傾聴する。利用者様とご家族様の思い・要望等を十分に傾聴し、ご本人が安心して入居できる体制づくりに努めている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族が遠距離におられることもあり、事前に電話連絡を行い、ご家族の意向を聞き、その後入居に必要な事項及び物品等について文書案内を行い、当日時間を設けてご本人との関係性を考慮しながら、ニーズ・デマンドを把握し信頼関係が構築できるように努めている。	
17		初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご家族或いは施設・病院職員より、入所前の心身の状態、生活状況のアセスメントを行い、現状の困り事やこれからの生活に対する不安・要望等を傾聴し、グループホームにおける共同生活が可能か否かの見極めを行っている。また入所前に関わっているケアマネジャーからの情報及び施設訪問等を受け、施設の雰囲気等を客観的に確認して頂きご本人及びご家族への情報提供を行っている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者様の家という感覚的思いを持ち、プライバシーの確保と生活意欲の向上、役割提供を行い共に暮らし協働している関係性を構築している。	
19		本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族様に対し、日々の面会や電話連絡にて利用者様の状況をお伝えし、課題となる状態に対して対策を提案している。そして提案した内容について、互いに話し合いを持ち方向性を見出している。また 月初め及び必要時、ご家族様に心身の状態及び生活状況を便りにて伝えている。便りによって、ご家族様から電話があり、直接利用者様の声を聴かれる場面もあり、「家族の存在」が身近に感じられるよう支援している。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 町内に住所のある利用者様が7名おられ、買い物・ドライブ・散歩及び定期受診時、知人に出会う機会が再々にある。談話ができる時間を設け、次に会える事への期待となるように支援している。また9月新規入居された方においては、定期の受診先が遠距離の診療所にあり、近隣の病院への紹介を行うように予定していたが、受診時自宅近所の友人数人と出逢い、会話が弾む状況が確認された為、予定を変更し継続し診療所への通院を行うことにしている。 (外部評価) 調査訪問時、事業所近くに住む姉妹が迎えに来られて、お宅で夕方まで過ごして帰って来られる方がおられた。昼食後、職員は、食後の薬を持って、お二人の様子をみに行かれていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様が孤立しないよう、スタッフが間に入り、利用者様同士が関わりが持てるように努めている。特にリビングや和室におけるレクリエーション作業、野菜の収穫、買い物、洗濯物たたみ等 数人でできる役割を提供し、互いが共同し充実感が得られるよう支援を行っている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了した後も、施設・病院等への生活に移行された場合、時々訪問し関係性を継続している。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や暮らしについて、年1回認知症センター方式を活用し、その人らしさを振り返っている。そして、時々本人の要望・希望に沿って、意向が達成できるように関わっている。特に「何もすることがない」と役割願望のある方には、家事を自立した状況で提供することによって、満足し充実感を持って頂いている。尚 日々の記録においては、フォーカスチャータイングを活用し、課題を焦点化しアクションを起こしている。 (外部評価) 奥様のことを思う利用者の気持ちや、「会いたい」という気持ち等を大切に、会いに行くことを支援されている。又、職員が「お元気ですね」と声をかけると「元気が悪い」と、ご本人が気分を悪くされることもあり、「お身体の調子はいかがですか」等と、言葉のかけ方にも配慮をされている。お小遣いが気になる利用者、「息子さんから1万円預かっています。安心してください。」と書いて居室に貼っておられた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 1年に1回認知症センター方式を活用し、生活全般における心身の変化及び暮らしの状況を確認し、認知力・行動変化の経過を把握し支援に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者様一人ひとりのその人らしさを理解し、その人の認知の進行及び生活の有り様・現状把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 日々のカンファレンス及び月1回のミーティングにおいて、課題を抽出しその時々において、スタッフ及び必要時ご家族様へ意見を求め、プランを立案或いは変更し課題の解決に向けて取り組んでいる。	
			(外部評価) 介護計画の作成時には、ご家族、担当職員、管理者で話し合い、気付きや意見を出し合って計画に採り入れておられる。新しい課題が明らかになった際や、状態変化時にはその都度、計画を見直しされている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の気分の変化・行動変化を申し送りの際、スタッフ間にて情報交換・共有しケアの方法を検討し、プランの変更にて実践している。確実にケアの継続が行われるように、カードックスを活用している。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 心身の状態変化に合わせ、寝具・玩具・衣類・オムツ等の選択及び役割提供並びに外出支援の方法、その時々気分・体調に沿った支援を行っている。また創造性を駆使しサービスの多様化に取り組んでいる。そして、スタッフが一貫性のある対応が出来るように横の連携を密にしている。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域・近郊の行事や教育施設・保育施設等のイベントをリサーチし、できるだけ多くの利用者様が地域住民として参加できる場の提供を行っている。そして田舎ならではの自然と人に触れ合う機会を多く持っている。またボランティアの訪問を受け、演芸・「読み聞かせ」や菓子作り等の楽しむ機会が増えている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 本人・ご家族様の希望に沿った医療機関に通院している。また個々人の心身の状態変化によって臨時受診の必要性がある場合は、ご家族様に病状説明を行い相談した後、適切な病院へ受診する。また、ご家族様の同行が必要と判断した場合には、その旨依頼し気持ち良く同行して頂いている。</p> <p>(外部評価) 北宇和病院をかかりつけ医とされている利用者が多く、受診の際には看護師の資格を有する職員が付き添われている。受診結果は、ご家族に報告されている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 日常の関わりの中で、心身の変化、疑問に思った内容について、看護師に報告し対応策を検討している。受診の必要性があると判断した場合は、早期に受診している。また病院看護師と相互に情報交換を行い利用者様が円滑に受診ができるよう配慮している。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院の際、医師・看護師・理学療法士・作業療法士・栄養士等に必要な情報提供を文書及び口頭にて行っている。また入院中 状態把握の面会を行い、病状及び治療状況について医療スタッフより情報を得ている。また退院の際には、退院時サマリーを受け、今後の生活に反映できるように支援している。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入所時、現疾患によって今後重症化する可能性のある利用者様にあっては、ご家族様に対して見取り介護に対する事業所の方針を説明している。また入所途中に病状の変化・重症化にて医療が継続的に必要となった場合、ご家族様と十分な話し合いを行い方針を共有し支援を行っている。ご利用者様1名については、現在症状安定しているが、急変した場合訪問看護及びホームの看護を受け、最後の見取りを行うことで合意している。</p> <p>(外部評価) 入居時、重度化や看取りについての説明を行い、病状の変化時や急変時には、その都度話し合いの場を持ち、事業所ですることできないことを説明してご家族の意向をお聞きし、ご家族の協力も必要であることを話しておられる。現在、事業所での看取りを希望されている方がおられ、主治医や訪問看護とも連携を図り、方針を共有して支援に取り組まれている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 全ての職員において、救急蘇生法及び外傷・骨折等の救急手当及び事故発生時の初期対応について研修を行っている。また利用者様急変時、看護師による救急対応・救急搬送支援後、早い段階にて、その時々々の病状変化のアセスメント・看護及び救急連絡方法等について再学習する機会を設けている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回自然災害及び火災による訓練を行っている。H22.10月夜間火災訓練及びH23.5月地震が発生した場合の避難訓練を実施している。自然災害については、事前に消防署員より避難方法を代表者・管理者が聞く機会を設け、その後実際を行っている。また永野市消防団員への災害時の協力を求め、運営推進会議時利用者の情報を時々伝えていく。 (外部評価) 5月に、「夕方6時ごろの地震発生」を想定して避難訓練に取り組みされた。消防署へ通報する訓練や利用者を靴下のみで駐留場に避難誘導させて、ご家族へ連絡する等された。訓練後は反省会を行い、電池や水、非常食等持ち出し品の点検を行ったり、今後、さらに「どのようなものが必要か」等、検討された。消防署からは「地域の災害の際には自分たちで身を守って欲しい。日々の訓練や逃げ道の確保をしてください」とのアドバイスがあった。	地域の避難場所が遠くにあるため、事業所では道路を挟んで、前にある農協の駐車場に避難することを考えておられた。事業所の立地条件や利用者の状態等も踏まえて、すべての利用者が避難できるような方法を全職員で身につけることができるように、訓練を重ねていかれてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者様一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや態度にて接している。また居室やトイレ・浴室等プライバシーに関わる場所について、声かけ・ノックをする等、個人の空間を大切に入室するよう対応している。 (外部評価) 職員は、居室への入室の際にはノックをされ、又、トイレ誘導やおむつ交換の際には、小さな声で対応されている。入浴の際には利用者の希望を聞き、同性介助を心がけておられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様自身ができることや役割については、見守りを行いながら不足の部分を補うように対応している。また日常生活の中で関わりながら、できること・わかることを一つでも多く発見できるように働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々本人の希望に沿えるように、利用者様の声を大切に一人ひとりのペースに合わせ支援している。意思決定ができる方は、好まれる過ごし方を自由にされている。また意思決定の表出が困難な方に対しては、様々な活動を通して、喜ばれる表情が確認できる事から関わっている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 2ヶ月に1度美容師の訪問を受け、カットをしている。日々の整髪については、本人が行えるように櫛の提供並びに整髪の支援を行っている。また都度のカラーリング及び髭剃り・爪切りにおいては、スタッフがやっている。尚 爪切りにおいて、自立している方に対しては、見守りを行っている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 料理に興味のある利用者様にあっては、スタッフと共にホームの畑に出向き野菜の収穫を行い、その野菜を使用し食事の下準備・味付けを行う等時々やっている。また食事の後始末については、役割を持って2名の方が互いに譲り合いの気持ちを出しながら行われている。また嚥下能力及び運動機能の低下によって食事の形態やセッティングを考慮し、できるだけ自立した食事が摂取できるように働きかけている。 (外部評価) 調査訪問時、遅目の朝食を食べておられる利用者がおられた。食事は、ご飯とお粥が選べるようになっている。職員は利用者の隣に座り同じものを食べながら、献立を説明されたり食器を置き換えたりして、利用者のご自分の力を使って食事ができるようにサポートされていた。食後は、ご自分の食器を下膳されたり、食器を洗っておられる方もみられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々人に合わせ、食事形態・量・温度を考慮し食事を提供している。また1日の水分量が不足しないように、一人ひとりの身体の状態に合わせた摂取支援を行っている。また温かい食事・冷たい食事が、その時々にて食事できるように努めている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアの自立している利用者様は、2名のみである。他の利用者様に対しては、洗面所への誘導・義歯の除去・歯磨き・含嗽のケア介助を行っている。夕食後は、義歯を洗浄し保管している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 「排便コントロール表の活用」によって、個々人の薬剤使用による排便の量・性状の観察及び排便パターンを確認し、排便コントロールを行っている。また個々人の排尿パターンに合わせてトイレ誘導・介助を行い、リハビリパンツ・尿取りパットの吸収量の増減を図り、気持ち良く排泄ができるように自立に向けたケアを行っている。	
			(外部評価) 入居時におむつを使用されていた方もあったが、尿意があることに職員が気づき、紙パンツやパットを使用して、トイレで排泄できるよう支援され、現在は、布パンツで過ごしておられるような方もいる。特に、食前、食後にはトイレに行けるよう、利用者に声をかけておられる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘になり得る成り行きを認知し、一人ひとりの心身の状態を把握し便秘の予防対応を行っている。特に便秘が誘因となるBPSD等をよく理解し、排便を促すケアを行っている。長期における便秘については、継続的に医師と相談を行い普通便の排泄ができるように調整を行っている。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週3回の入浴としているが、希望によって毎日入浴できる。一人ひとりの空間が保てるように、ゆっくり入浴ができるように配慮している。時々には、本人の希望によって二人で入浴される事もある。日中 自由に入浴できるように希望に沿って誘いを行っている。認知症の進行・運動機能の低下によって、見守りから全介助の支援をしている。	
			(外部評価) 週3回の入浴となっているが、いつでも入浴できるように毎日準備をされている。お湯の温度を確認するための温度計も置かれていた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々人の夜間の睡眠状態により、不眠時日中の休息を促し身体の疲労が起らないように対応している。また一人ひとりの生活習慣に合わせ、就寝できるように働きかけている。尚 眠剤の服用が必要な利用者様にとっては、服薬が確実にできるように努めている。昼夜逆転のある利用者様については、できるだけ起床を促し生活リズムの改善を図れるようにしている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) カーデックスに一人ひとりの薬剤情報を提示し、服薬までに3回の確認を行い、必ず日勤及び夜勤帯のリーダーに服薬したことの事実を報告している。通院によって薬剤の変更があれば、申し送りによって必ず全てのスタッフに伝達できるようにし、効果及び副作用について確認を行い症状の把握に努めている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴を大切にして、通常の家事(掃除・洗濯干し・洗濯たたみ・食事の下ごしらえ・食事の後片付け、買い物等)、畑作業、花壇の手入れ等の役割を本人の希望に沿って提供している。またカラオケ、塗絵、折り紙等のレクリエーションについては、材料を提供し好きな時間に気の済むまで行えるように空間を提供している。このことにより気分の安定を図ることが可能である。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望によって、買い物・散歩・ドライブ等に出掛ける支援を行っている。また地域の行事及び自宅や親戚宅への訪問についても、本人の希望がある時は、連絡を行い迎えの依頼や場合によっては、訪問先まで送迎を行う等、外出がスムーズに行えるように対応している。 (外部評価) 散歩の途中に、友人宅に立ち寄られることもある。季節のお花見や「道の駅」等へドライブされることもある。外出に行かれた際には、利用者はとても喜ばれたようで、次も計画したいと考えておられた。利用者が「自宅に帰りたい」と希望される場合は、ご家族の協力も得ながら、職員がご自宅まで送迎して、ご家族と一緒に過ごす時間を作っておられる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人の金銭管理は、家族の希望によりホーム預かりとしている。買い物希望がある時は、スタッフと共に買い物に出掛けている。現在レジにて支払い行為ができる利用者様は、2名である。店内に入る時、財布を渡すことによって、買い物意欲が高まり、色々なブースを見て廻られる。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じ家族への電話連絡を行っている。また小包や便り等届いた場合、本人に送り主の情報を伝えている。また希望があれば、贈り物等の代行を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関・廊下通路、居室に四季の彩りや行事ごとの飾りを行い季節感を取り入れている。また利用者様の塗り絵や折り紙等の作品を掲示している。そして、利用者様間の関係性及び運動機能に合わせて、ソファの位置やリビングの椅子の配置を考慮している。 (外部評価) 畳の間にはテーブルとソファが置かれてあり、テレビを見たり折り紙を折ったりして過ごされている。居間の椅子の背もたれには、利用者様がご自分の座席と分かるように名前が貼ってあった。居間には、利用者が折った鶴が飾られていて、窓からは、畑の野菜や柿、又、予土線の汽車の往来も眺められる。ウッドデッキでは、日向ぼっこされたり、バーベキューを楽しむこともある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングに一人ひとりの椅子に名前を貼り固有の物と認識されている。また和室ソファの位置をコの字型に並べ、座る・横になりテレビを鑑賞する等憩える場の工夫をしている。そして、ウッドデッキにベンチを2つ用意に、和室からウッドデッキに自由に入出入りできるようにしている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族と相談し、昔馴染みの物や、思い出の写真・アルバム、絵画等を居室に持ち込み、馴染みの環境を整え、居心地良く過ごせる工夫をしている。また利用者様の意向に沿い、居室にて自由に物作りができる環境を提供している。 (外部評価) 居室入口のネームプレートは、利用者が見やすいように高さや形を工夫されていた。すべての居室には、職員手作りの日めくりカレンダーがかけられていた。鉢植えの花を置いて楽しまれたり、散歩時に集めた草花の種を撒いて成長を楽しみにされている方もいる。ご家族と一緒に写っている写真や、奥様からのメッセージ・ご家族からの年賀状等も飾られていた。ご家族が持参された雑誌「家の光」や時計、鏡台、ワゴン等も置かれていた。以前作った押し花の作品を飾ってる方もあった。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 単独外出による事故防止等の文言を各ドアに貼り、安全に暮らす事の意識付けを行っている。また、リビング椅子の名前表示、トイレへの誘導表示・居室の表札及び確認札を作り、少しでも一人で「できる」「わかる」ことの助けができるように工夫している。	